

結核予防会の枠を超えて、情報を広く発信する方向へ

第17回TBアーカイブ委員会報告

結核予防会顧問

TBアーカイブ委員会委員長 石川 信克

委員会は令和6年8月27日に、結核研究所とウェブ（Zoom）でのハイブリッド形式で行われた。出席者は結核予防会内部委員9名、外部委員4名（清瀬市の木原雄嗣、北里研究所の松田信孝、名古屋大学の福田真人、順天堂大学の渡部幹夫の各氏）、事務局5名、オブザーバー4名（尾身理事長を含む）であった。

最初に尾身理事長から今後のTBアーカイブのあり方に関して、「結核予防週間」が「結核・呼吸器感染症予防週間」に変わった動きの中で、アーカイブ資料をより将来的なものとして扱う新たな視野が必要で、広く他組織との連携協力、結核以外の分野への広がりをどう考えるか、課題別にワーキンググループで取り組みを続けるなどの提言、活発な討論がなされた。

従来のTBアーカイブ委員会内規にある目的の内容の改定に関する提言があり、以下の改定案が了承された。「TBアーカイブは、第一義的に結核および結核対策に関する貴重な資料の散逸を防止し、学術的に貴重で歴史的に重要な資料等の収集および適切な保管を行い、適宜公開し、結核を中心とした感染症予防の啓発に寄与するとともに、諸種の組織（行政、研究・教育機関等）と積極的に協力し、今後の感染症対策や公衆衛生の発展に寄与することを目的とする。」

全体の議論を集約すると、①今後のTBアーカイブの役割は、貴重な結核資料の収集・保管・公開から、今後の感染症対策に備えるという方向が求められている、②結核予防会の枠内だけでなく、様々な関連機関との連携・協力が必要である、特に清瀬市（郷土博物館）や北里柴三郎記念博物館等とさらに連携を強めたい、③対象疾患を結核に絞るか、非結核性抗産菌症や呼吸器感染症と範囲を広げるか、今後の感染症対策とどう繋げていくかは、今後議論・検討をしていく。公開に関しては、清瀬市郷土博物館で結核の常設展示場が作られ、結核研究所資料の提供体制もできつつある。直近の展望では、清瀬市が来年11月頃企画している結核サミット開催の成功に向けて是非積極的に協力していくことが確認された。

いくつかあげられた意見を以下に列記する。

（木原委員）：結核に特化した清瀬市史が発行される予定。当委員会の資料等をデジタル化して公開をしていただきたい。清瀬市郷土博物館でもたくさんの方に来ていただいている。昔の紙芝居やポスターを見た市民が、新型コロナウイルス感染症とそっくりと感じた。今後起こり得る感染症にも共通する経験がある。

（福田委員）：過去の診療録は歴史的に非常に有用。イギリスでは1800年代からすべての病院の記録が残っている。

（前田委員）：活用としてはオープンデータ化し、フリーアクセスで学術的に活用してもらうのと、知的財産としてセミクローズにし、共同研究として共有する方法がある。枠を超えるためには我々からもっと発信すべき。定期的にSNSなどブログで発信できる体制が必要。

（渡部委員）：日本医史学会に『医菌薬学系博物館事典』があるが、結核研究所図書室は出てこない。博物館にできないか。TBアーカイブという表現は、インターネットにおいてもしにくい。イギリスのジェンナー博物館では種痘だけでなく、結核、HIV等の周辺領域の展示もあった。

（工藤委員）：スイスのダボスは「魔の山」の舞台。今は観光ホテルだが、結核の記念室が残されている。アメリカのデンプーは当時は結核のアメリカ最大の拠点、現在は呼吸器領域で国際的にもリーダーシップをとっている。それらもサミットに参加を呼びかけたらいい。

（尾身理事長）：本会は結核の経験が中心だが、結核の歴史、結核対策で学んだことが多く、他の呼吸器感染症、感染症対策に役立つ。新型コロナウイルス感染症で起こったことはほとんど経験している。その教訓をまとめて出したらよい。

活動報告：①旧保健同人社から、1,000点余りの書籍の寄贈があった。②明治村の結核関連の展示は5月にリニューアルして、パネル10枚を作製、公開した。

